

Christes Maesse

クリステス メッセ

知っておきたいキリスト教のことば (64)

クリスマス くりすます

クリスマスという言葉は、日本においても一般的になっています。しかし残念ながら、本当の意味はあまり伝わっていないようにも思います。

幼稚園の礼拝で子どもたちに聞いて最初に返ってくる答えは、「サンタさんの日!」。その他にも人によって、いろいろなイメージを持っているようです。プレゼントをもらえる日、恋人と一緒に過ごす日、ケーキやフライドチキンを食べる日などなど。

どうも日本では、商売の片棒を担っているような気もしますが、そもそも「クリスマス」とは、「イエス・キリストの誕生日」を祝う日です。クリスマスという語は「クライスト マス」、つまりキリストの礼拝を意味します。

つまりイエス様のお祝いをしているわけなのです。とはいっても、イエス様の誕生日は聖書の中には書かれていません、12月25日をイエス様の誕生日と定めたのは4世紀中ごろであり、異教の祝祭日をキリスト教化していく流れの中で定められました。

したがって正確にいうと、12月25日はイエス様の誕生を記念する日ということになります。

クリスマスとクリスマスイブ(12月24日)には多くの教会で、礼拝がささげられます。クリスマスキャロル(賛美歌)の中には聞いたことのある曲もあるかもしれません。

「きよしこのよる」、「あらのはてに」、「もろびとこぞりて」などを一緒に歌いながら、イエス様があなたの元にもきてくださっていることを感じてください。

礼拝の予定は、ホームページを参考にしてくださいね。

次回は「啓示」です。お楽しみに。



「羊飼いの礼拝」

ヘラルト・ファン・ホントホルスト

1592~1656年

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。

(マタイによる福音書1章18節)

